

## 頸城 浅海川

2年前、幻となった頸城での会山行で行く予定だったのが浅海川。今年は残雪が少ないのでチャンスとばかりに数ヶ月前から予定を組んでやる気満々で行って来た。

記録の少ない浅海川。インターネット上に出てくる僅かな記録では、登れない滝が多く、高巻きの草付きは滑って悪い。そして、中間部から先のゴルジュは、下田川内で有名な割岩沢のジッピを彷彿とさせる細さとのこと。さて、どうなることやら。



出合に向かい、意気込んで橋から入渓したらすぐに堰堤が出てきて出端を挫かれる。あらら、よく見れば右岸に道がついているじゃないか……。そそくさと林道へ上がり、工事現場を越えた先から気持ちを新たに入渓する。今まで行っただの沢とも違う、黒くてツルんとした岩質の溪相が続いている。水量は多いとは思わないが、深い釜を持った滝が連続して現れる。

先に進み、滝に寄りかかっている流木を頼りに滝を越えると、側壁が立った登れない滝が待ち構えていた。後続の萩原君、栗原さんに向かって首を横に振りジェスチャーで高巻きを指示する。さて、どこから越えるか……。辺りを見回すが、10mも登れば樹林帯に入ることができるのに、その樹林帯の下には黒い岩壁が帯のように横に伸びて行く手を阻んでいる。ホールド・スタンス共に乏しく、岩質は極めて脆い。来た道に戻って登攀ラインを探す。ここはさすがベテランの栗原さん。絶妙なラインを見つけて空身で越えてくれた。感謝しながらお助けを貰い最初の難所を越えると、樹林帯の地面はほぼ平らで歩きやすい。とある記録では沢に降りても登れない滝の連続とのことだったので、その記録を書いた人に倣い、進めるところまで樹林帯を進むことにした。が、若手の萩原君は沢を歩きたいと言ってそそくさと降りてしまったので、自分達も仕方なく沢に降りて遡行を再開した。

中間部のゴルジュまでは滝の登攀が続く。やる気の萩原君が、ぱっと見、高巻くだろうと思われる滝も登ってくれたので順調に進むことができた。何個かの滝を越えると急に高低差が無くなり、穏やかな流れの河原となる。気になっていた空には青空が広がり、気持ちよく歩いているとゴルジュの始まりを告げる滝が待ち構えていた。

小休止を挟んでからゴルジュに向かう。出だしの滝は萩原君が空身になり華麗なムーブで突破。栗原さんも続き、自分もお助けを貰い突破する。さあ、ここからが細いゴル

### 【日程】

2016年9月10日(土)  
～9月11日(日)

### 【メンバー】

吉澤(L)、萩原、栗原

【グレード】3級上

### 【地形図】

雨飾山、妙高山

### 【記】吉澤



ジュの始まり・・・ってあれ、ゴルジュじゃない。???。目の前の景色を飲み込めず、ぼかーんとしたまま先に進む。ふむふむ、少し進むとゴルジュっぽくなってきた・・・と思ったらまた広くなった。???。ジッピを彷彿とさせるゴルジュはどこ?出てくる滝は小振りだが、岩が滑るので少々苦勞するが、絶望なまでに悪い訳ではないので、キャッキヤと黄色い声を上げて遊びながら越えて行く。一番難しかった滝は萩原君がチョコチョコと登ってくれたお陰で難なく突破することができた。偉いぞハギー。そうこうしていると沢は完全に開けて河原状になってしまった。「これからものすごいゴルジュがでてくるんですよ!」なんて話ながら進むが、皆うすうす勘づいていた通り、もうゴルジュが現れることはなかった・・・。



記録から受ける印象と現実の沢とのギャップにキョトンとしてみました。こればかりは行ってみなければ分からない。記録の少ない沢を遡行する醍醐味の一つとして楽しんだもの勝ちだろうと思った山行でした。

### 【行程】

- 9/10 出合 (7:30)
- ～中間部ゴルジュ手前
- (12:30/12:50)～1950m付近泊
- (15:00)
- 9/11 C1 (7:20)
- ～登山道 (8:00)
- ～林道 (10:10)

さて、核心を越えた先はすっかり穏やかな流れだ。適当な場所にツェルトを張って泊とする。まだ下界の気温は高いとは言え、山の夜の空気は冷たい。吐き出す白い息を見ながら秋の訪れを感じたのでした。

翌日、沢を詰めるとすぐに登山道に出ることができた。期待していた景色はガスの中で眺めることができず残念。あとは登山道を下り、無料の露天風呂で汗を流して今回の山行は終了した。

